

■■ 資料

日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2019)

坂 中 正 義

(南山大学人文学部心理人間学科)

要約

本論文は、2019年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A. 書籍、B. 研究論文、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

はじめに

筆者は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究, 17,

113-121.

2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）, 48, 195-214.
6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2008） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.

19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134.
26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.
27. 坂中正義 2018 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2017) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 97-130.
28. 坂中正義 2019 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2018) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 18, 115-137.

本論文では、これらの論文の続編として、2019年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

方法

2019年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォー

カシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A. 書籍、B. 研究論文¹、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2019年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

第 I 部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第 I 部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2019年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は4本で、そのうち2つが単行本であった。「B. 研究論文」は16本で、そのうち1つが特集であった。「C. 学会発表」は11本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」は3本であった。「F. 書評」は3本であった。

2019年の「来談者中心療法」の特徴は、執筆者とパーソンセンタード・アプローチの関わり述べられたA-1が刊行されたことであろう。

ロジャーズが「This is me」を表していることからわかるように、パーソンセンタード・アプローチの実践家においては自身のありようを振り返り、問い直すことは大きな意味があるといえる。A-1は15名のパーソンセンタードをオリエンテーションとする心理臨床家それぞれの「This is me」を論じている。他人の「This is me」にふれることは自身の「This is me」にふれることになる。筆者と読者の「This is me」の交差を促す貴重な文献といえよう。

なお、2019年は「人間性心理学研究」に1本（F-1）、関連文献が掲載された。

A. 書籍

1. 飯長喜一郎・園田雅代編 2019 私とパーソンセンタード・アプローチ 新曜社
まえがき（飯長喜一郎）

¹ 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

クライアント中心療法がわかるまでの私的軌跡（飯長喜一郎）
 共感、感情移入、自己投入（小林孝雄）
 かかわる・つなぐ・ゆだねるPCAのなす「対話」（坂中正義）
 来談者中心療法から多面的アプローチ、そしてフォーカシングへ（伊藤研一）
 「パーソン中心」を求めて（堀尾直美）
 傾聴（リスニング）について（大澤美枝子）
 私なりのパーソンセンタード・カウンセリングへの道（吉原 啓）
 パーソンセンタード・カウンセリングの可能性（三國牧子）
 パーソンセンタード表現アートセラピーと私（小野京子）
 日舞、パーソンセンタード・アプローチ、アサーションとの出会い（園田雅代）
 セラピストのスタンスの探究からナラティブ・プラクティスへ（無藤清子）
 共感的理解によるクライアント中心療法の定式化をめぐる（岡村達也）
 パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログ（本山智敬）
 パーソンセンタード・セラピストという自覚（中田行重）
 私のパーソンセンタード・アプローチの未来像を求めて（村山正治）
 あとがき（園田雅代）

2. 小室弘毅 2019 なぜ教師にカウンセリング・マインドが必要なの？—学びのための、マインドフルな、他者との存在の仕方— 竹尾和子・井藤 元編「ワークで学ぶ学校カウンセリング」ナカニシヤ出版, 第15章, 205-219.
3. 村田 進 2019 いたみといたわりをめぐる人間中心の心理学 十分に機能するためのねじれといやしの方程について コスモス・ライブラリー
 - 序論 私として人間として
 - 第1部 ねじれ仮説の成り立ち
 - ロジャーズ「不一致の図」とジェンドリン「プロセスモデル」から
 - 序章 私という事例から
 - 第2章 他の当事者事例について
 - 第3章 いたみといたわりの交差といやしの構造について
 - 第4章 島瀬モデルとねじれ仮説
 - 第2部 ねじれと臨床
 - 第5章 YG 性格プロフィールとの整合性について
 - 第6章 アセスメントの実例
 - 終章 十分に機能する人間の在り方について
 - 結論 仮説の検証
 - 補遺
4. 中野 明 2019 人間性心理学入門: マズローからジェンドリンへ アルテ
 - 第1章 人間性心理学とは何か
 - 第2章 アブラハム・マズロー
 - 第3章 ヴィクトール・フランクル

- 第4章 ロロ・メイ
- 第5章 カール・ロジャーズ
- 第6章 フレデリック・パールズ
- 第7章 エリック・バーン
- 第8章 ユージン・ジェンドリン
- おわりに

B. 研究論文

1. 石井要子 2019 理事長あいさつ カウンセリング, 51(1), 2-3.
2. 兼廣久美子 2019 竹下志磨さんを囲んで カウンセリング, 51(1), 33-34.
3. 関西大学心理臨床センター編 2019 特集：パーソン・センタード・セラピーの展開 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 65-73.
 Person-Centered Therapyにおける心理的接触のあり方：Relational depthでの出会いとは（中田行重・斧原 藍・白崎愛里）
 Person-Centered Therapyにおけるリフレクションの新たな考え方（小野真由子・並木崇浩・山根倫也・中田行重）
 パーソン・センタード・セラピーの現状と効果研究について：海外の状況から考える（中田行重）
 医療モデルの心理療法にはないPCTの意義：Hawkins による被虐待児に関する論考の紹介（中田行重）
4. 片倉知子 2019 大島礼子さんのグループに参加して カウンセリング, 51(1), 29-30.
5. 村山正治 2019 大転換期にいる日本の心理臨床の世界—私の考える本専攻のスタンス— 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 1-3.
6. 中田行重 2019 パーソン・センタード・セラピーの現状と効果研究について：海外の状況から考える 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 75-84.
7. 並木崇浩 2019 国際会議参加報告：講演題目「The meaning of “philosophizing” for the development of a Person-Centered Therapist: Trial of “contemplative dialogue”」 日本人間性心理学会ニュースレター, 94, 4.
8. 大島礼子 2019 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 51(1), 28-29.
9. 小野真由子 2019 国際会議参加報告：講演題目「Supervision におけるPCAらしい変化とは？」 日本人間性心理学会ニュースレター, 94, 3.
10. 柴田久美子 2019 妻木真弓さんのグループに参加して カウンセリング, 51(1), 37-38.
11. 清水幹夫 2019 理論学習 カール・ロジャーズ「セラピー的パーソナリティ変容の必要にして十分条件」—その成立課程を中心として— カウンセリ

- グ, 51(1), 4-20.
12. 竹下志磨 2019 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 51(1), 31-33.
 13. 妻木真弓 2019 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 51(1), 34-37.
 14. 山田俊介 2019 カウンセラーの一致についての考察—カール・ロジャーズのとらえ方の変化をもとにして— 香川大学教育学部研究報告 第1部, 151, 113-130.
 15. 全日本カウンセリング協議会編 2019 特集：第25回二級カウンセラー研修会
 カウンセリング, 51(1), 1-50.
 第25回二級カウンセラー研修会
 理事長あいさつ (石井要子)
 理論学習 カール・ロジャーズ「セラピー的パーソナリティ変容の必要にして十分条件」—その成立課程を中心として— (清水幹夫)
 <ご報告> 地方創生さわやかサポーター認定協会の活動に参加して (川手泰子)
 <二級カウンセラー資格取得者による体験発表>
 カール・ロジャーズに学んで (大島礼子)
 大島礼子さんのグループに参加して (片倉知子)
 カール・ロジャーズに学んで (竹下志磨)
 竹下志磨さんを囲んで (兼廣久美子)
 カール・ロジャーズに学んで (妻木真弓)
 妻木真弓さんのグループに参加して (柴田久美子)
 講演 在宅ホスピスケアの実際—ケアタウン小平チームの取り組み— (山崎章郎)
 16. 全日本カウンセリング協議会編 2019 第25回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 51(1), 1.

C. 学会発表

1. 近田輝行 2019 体験的応答の観点からみたロジャーズの反射—1955年 Mr.Linの面接から— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 63.
2. 飯長喜一郎 2019 大会主催ワークショップ：グループスーパービジョン：GSV 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 27.
3. 日本心理臨床学会 (第38回大会) 2019 自主シンポジウム：パーソンセンタード・アプローチのさらなる発展のための対話(2) 日本心理臨床学会第38回大会発表論文集, 394.
 企画者・司会者 (坂中正義)
 話題提供者 (青木 剛・大島利伸・加藤敬介・山田俊介)

指定討論者（松本 剛）

4. 日本心理臨床学会（第38回大会） 2019 自主シンポジウム：公認心理師発足の時代におけるPCAの意味とその教育 日本心理臨床学会第38回大会発表論文集, 410.
企画者・司会者・指定討論者（飯長喜一郎）
話題提供者（園田雅代・中田行重・小林孝雄）
5. 野島一彦 2019 大会主催ワークショップ：グループスーパービジョン：GSV 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 28.
6. 大谷桃子 2019 心理臨床家をめざす大学院生による「積極的傾聴実習」の体験報告と考察 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 68.
7. 斧原 藍 2019 ThのPCA観に関する考察 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 63.
8. 押江 隆・玖村奈美 2019 クライアントと「ともに生きていける」と実感するに至ったパーソンセンタード・セラピーの一事例 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 77.
9. 坂中正義 2019 大会主催ワークショップ：パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 30.
10. 鈴木聖幸 2019 高等学校の教師による、PCAを思想的背景として、SAの手法を用いた教育実践の報告 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 57.
11. 山根倫也 2019 PCAにおける専門的知識の位置付け 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 64.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

1. 中田行重 2019 医療モデルの心理療法にはないPCTの意義：Hawkins による被虐待児に関する論考の紹介 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 85-91.
2. 中田行重・斧原 藍・白崎愛里 2019 Person-Centered Therapyにおける心理的接触のあり方：Relational depthでの出会いとは 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 41-51.
3. 小野真由子・並木崇浩・山根倫也・中田行重 2019 Person-Centered Therapyにおけるリフレクションの新たな考え方 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 65-73.

F. 書評

1. 廣瀬幸市 2019「坂中正義編著 田村 隆一・松本 剛・岡村達也 2017『傾聴

- の心理学:PCAをまなぶ—カウンセリング／フォーカシング／エンカウンター・グループ— 創元社」人間性心理学研究, 36(2), 261-263.
2. 串崎真志 2019「飯長喜一郎・園田雅代編 2019『私とパーソンセンタード・アプローチ』新曜社」こころの科学, 207, 日本評論社, 98.
 3. 村里忠之 2019「飯長喜一郎・園田雅代編 2019『私とパーソンセンタード・アプローチ』新曜社」The Focuser's Focus, 22(2), 13-14.

付：同リスト（～2018）

「第Ⅰ部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」の追録

A. 書籍

1. 長尾文雄 2016 いのちの電話に学ぶ 傾聴と共感—寄り添い続けるために— 関西いのちの電話
第1シリーズ 共感(1)～(30)
第2シリーズ 共感ってなに? (1)～(30)
第3シリーズ 傾聴と共感(1)～(20)
断章 いのちの電話を考える

B. 研究論文

1. 石倉篤・田中雄大・堀川優衣・山本幸代・永野浩二 2015 傾聴トレーニングの実践報告—ゆるやかな構造の中から生まれた自主的な学び— 追手門学院大学地域支援心理研究センター付属心のクリニック紀要, 11, 42-56.
2. 伊藤義美 2017 私のパーソンセンタード・アプローチ (PCA) の実践と研究—エンカウンター・グループとフォーカシングを中心に— 人間と環境, 14, 11-20.
3. 川村隆彦 2000 てんかん患者へのソーシャルワーク：クライアント中心療法, ライフモデル, 認知行動療法を使ったSystematic Eclectic Approachの実際 社会福祉学, 40(2), 57-80.
4. 中田行重・斧原 藍・白崎愛里 2018 多元性に着目したPerson-Centered self理論の新たな展開：Configurationとは何か 関西大学心理臨床センター紀要, 9, 95-102.
5. 西井克泰 2005 心理療法における「クライアント中心」の本質と今日的課題 —「対称性の原理 Principle of Symmetry」を手がかりとして— 武庫川女子大学紀要（人文・社会科学編）, 52, 93-104.
6. 坂中正義 2018 初学者向けパーソンセンタード・アプローチ・ワークショップの試み—自身との対話をベースとした中核3条件と傾聴の体験的理解をめざして— 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 24-54.
7. 植竹奈美子・鹿子田睦月他 2015 大学院授業における「積極的傾聴」の実

C. 学会発表

〔該当文献なし〕

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2019年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は3本で、そのうち1つが単行本であった。「B. 研究論文」は50本であった。「C. 学会発表」は13本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」は2本であった。「E. 海外文献紹介」は2本であった。「F. 書評」はなかった。

2019年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、初学者向けにフォーカシングをわかりやすく概説したA-1、A-2、心理臨床におけるフォーカシング実践であるB-43、B-46が刊行されたことであろう。

A-1は小冊子、A-2は1章という限られた分量の中でわかりやすくフォーカシングについて概説していた。そしていずれも読み手が実習を試みることができるように工夫されている。この領域の発展や世の中への浸透を考える上で、初学者をターゲットにした文献は非常に重要な役割を果たすといえる。この2本の文献はその意味で貴重である。

一方で、同様のこの領域の発展や世の中への浸透に必要な文献としては、心理臨床家をターゲットとし心理臨床におけるフォーカシング、フォーカシングからみた心理臨床について論じたものがあげられる。B-11はPTSD、B-43は抑うつといった課題に対してフォーカシングがどのような援助ができるかを示すものであり、心理臨床におけるフォーカシングの実際や意味を示す重要な文献である。

なお、2019年は「人間性心理学研究」に5本（B-11、B-37、B-38、B-43、B-46）、関連文献が掲載された。また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

A. 書籍

1. 阿世賀浩一郎 2019 入門カウンセリング 鳥影社
はじめに
序章 身体の内側からの感じを「分化」させて味わう実習
第1章 Clearing a Space……気がかりの「棚卸し」
第2章 自分の中の「それ」との関係づくり
第3章 感じと友好的に「一緒に一いられる」関係づくり
第4章 自分自身の声を聴く
第5章 内なる感じに問いかける（asking）
第6章 ここまでで生じたことを受けとめる
第7章 夢とフォーカシング
あとがき
2. 堀尾直美 2019 「いまここ」の体験を言葉にするとは？—体験を表現し理解するフォーカシング・プロセス— 竹尾和子・井藤 元編「ワークで学ぶ学校カウンセリング」ナカニシヤ出版, 第16章, 220-233.
3. 岡村心平 2019「臨床的手続き」としての建築とその使用法—ジェンドリンと荒川+ギンズ— 三村尚彦・門林岳史編著「22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ—天命反転する経験と身体—」フィルムアート社, 139-153.

B. 研究論文

1. 阿部利恵 2019 TRE®とフォーカシング The Focuser's Focus, 22(2), 4-5.
2. 阿世賀浩一郎 2019 「入門・フォーカシング」と「カウンセラーこういちろうの雑記帳—若い臨床家のために—」刊行によせて The Focuser's Focus, 22(2), 9-10.
3. 梓澤まり 2019 宇宙船「東京フォーカシング・サンガ号」に乗って The Focuser's Focus, 21(4), 6-7.
4. 伊達山裕子 2019 子どもとフォーカシング：「フォーカサーの集い in しまね」の書店 The Focuser's Focus, 22(3), 10.
5. 土井晶子 2019 第28回フォーカシング国際会議 in メキシコ報告：1 メリダ、流血の一夜：第28回フォーカシング国際会議 in メキシコ The Focuser's Focus, 22(1), 12-13.
6. 浜田千晴 2019 私の扉を開いていくこと～フォーカシングサンガに参加

- して The Focuser's Focus, 22(2), 8-9.
7. 久羽 康 2019 研究者の数珠つなぎ：哲学的に考えることと、臨床と The Focuser's Focus, 22(3), 15-17.
 8. 堀田敬子 2019 コラボ最高!!～フォーカシングとゲシュタルトのコラボレーションワークショップ in 高知に参加して The Focuser's Focus, 22(3), 14-15.
 9. 池見 陽・筒井優介・平野智子・岡村心平・田中秀男・佐藤 浩・河崎俊博・白坂和美・有村靖子・山本誠司・越川陽介・阪本久実子 2019 アニクロ：体験過程理論から見出された実存的なワーク 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 9, 1-12.
 10. 泉屋昌平 2019 集い in しまね 参加者の感想：宍道湖の夕暮れ再び The Focuser's Focus, 22(3), 3-4.
 11. 春日菜穂美 2019 性暴力被害によるPTSDに対する描画を用いたアート・フォーカシングの効果—「こころの中の私」「こころの天気と私」「キャラクター法」の適用— 人間性心理学研究, 36(2), 219-230.
 12. 北風菜穂子 2019 集い in しまね 参加者の感想：集いに参加して The Focuser's Focus, 22(3), 5.
 13. 小原 浩 2019 やっと始まりました!こんなにも仲間が! The Focuser's Focus, 21(4), 5.
 14. 小原 浩 2019 集い in しまね 参加者の感想：人が居ること、そして神様 The Focuser's Focus, 22(3), 4.
 15. 小松実知子 2019 集い in しまね 参加者の感想：フォーカサーの集いに初めて参加して The Focuser's Focus, 22(3), 4-5.
 16. 小坂淑子 2019 研究者の数珠つなぎ：Gendlinはどうして、フェルトセンスを「象徴化」といったのだろうか The Focuser's Focus, 22(2), 11-13.
 17. 小坂淑子 2019 KOL-BEを用いたフォーカシング体験の特徴—ワークショップ参加者の感想の質的分析— 大正大学大学院研究論集, 43, 209-228.
 18. 栗秋桃香 2019 フォーカシング指向アートセラピー (FOAT) としてのシルエットワークとその効果に関する事例研究—大学生を対象としたセルフケアとしての—考察— 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 88-89.
 19. 栗秋桃香 2019 フォーカシング指向アートセラピー (FOAT) としてのシルエットワークとその効果に関する事例研究—大学生を対象としたセルフケアとしての—考察— 東亜大学大学院総合学術研究科修士論文
 20. 久手堅憲作 2019 自然とフォーカシングを深く味わうリトリート at 戸隠に参加して The Focuser's Focus, 22(2), 8.

21. 前田満寿美 2019 「自然とフォーカシングを深く味わうリトリート at 戸隠」の感想 The Focuser's Focus, 22(2), 6.
22. 宮野由紀 2019 子どもとフォーカシング：毎日の食事とプレゼンスについて思うこと The Focuser's Focus, 22(2), 10-11.
23. 宮田周平 2019 研究者の数珠つなぎ：私が生きていくために頼りにしている二つのこと The Focuser's Focus, 21(4), 9-10.
24. 名取恵子 2019 自然とフォーカシングを深く味わうリトリート at 戸隠に参加して The Focuser's Focus, 22(2), 7-8.
25. 仁田公子 2019 東京フォーカシング・サンガ～光を分かち合い根っこでつながる～ The Focuser's Focus, 21(4), 7-8.
26. 野村昌世 2019 東京フォーカシング・サンガ 感想と紹介 The Focuser's Focus, 21(4), 6.
27. 小田原康貴・宮河志帆・佐川 愛・守屋彩加・島田諒也・後山未来・池見陽 2019 日本におけるフォーカシング研究文献2013-2018 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 9, 13-22.
28. 大澤美枝子 2019 2019 世界のフォーカシング(16) 香港体験記 The Focuser's Focus, 22(1), 11.
29. 大月かおり 2019 「自然とフォーカシングを深く味わうリトリート at 戸隠」に参加しました The Focuser's Focus, 22(2), 6-7.
30. 鮫島貴子 2019 「フォーカシングとゲシュタルトのコラボWS in 沖縄」での体験をふりかえって The Focuser's Focus, 21(4), 3.
31. 笹田晃子 2019 集い in しまね 出店者より：『3.11とフォーカシング9』 The Focuser's Focus, 22(3), 7-8.
32. 島袋みどり 2019 小学校教職員のストレスとその心理的緩和方法についての探索的研究—心理的緩和方法としてのフォーカシングを実践して—東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 96-97.
33. 島袋みどり 2019 小学校教職員のストレスとその心理的緩和方法についての探索的研究—心理的緩和方法としてのフォーカシングを実践して—東亜大学大学院総合学術研究科修士論文
34. 清水佳織 2019 沖縄初上陸! コラボ体験記 The Focuser's Focus, 21(4), 4-5.
35. 白岩紘子 2019 子どもとフォーカシング：「からだところへの気づき」のワーク 第3報 The Focuser's Focus, 22(1), 7-8.
36. 高橋玲子 2019 四国初のコラボレーション! The Focuser's Focus, 22(3), 13-14.
37. 田村隆一 2019 行き詰まりから生まれる発想 人間性心理学研究, 36(2), 255-260.
38. 土江正司 2019 意識の超越—仏教とジェンドリン哲学の視点から— 人

- 間性心理学研究, 36(2), 181-191.
39. 土江正司 2019 集い in しまね 出店者より：フォーカシング指向ミーティングの試み The Focuser's Focus, 22(3), 6-7.
 40. 土江正司他 2019 集い in しまね スタッフ一言集 The Focuser's Focus, 22(3), 3.
 41. 筒井優介 2019 フォーカシングとゲシュタルトのコラボレーション・ワークショップ in 沖縄 The Focuser's Focus, 21(4), 2-3.
 42. 筒井優介 2019 フォーカシングとゲシュタルトのコラボレーション・ワークショップ in 高知 The Focuser's Focus, 22(3), 12.
 43. 内田利広 2019 抑うつ状態にある中年女性に対するフォーカシング指向心理療法—身体的な訴えに含まれるフェルトセンスに着目して— 人間性心理学研究, 36(2), 231-242.
 44. 白井克子 2019 子どもとフォーカシング：「子どもとフォーカシング」に参加して The Focuser's Focus, 22(3), 11.
 45. 渡辺順子 2019 子どもとフォーカシング：「子どもとフォーカシング」に参加して The Focuser's Focus, 22(3), 10-11.
 46. 山田美穂 2019 ダンス・ムーブメント・セラピーのトレーニングにおける自己探索のプロセス—TAEステップを用いて— 人間性心理学研究, 36(2), 193-205.
 47. 山崎智恵貴 2019 フォーカシング池見とゲシュタルト定行コラボレーションワークショップ in 高知 (2019.6.1~6.2) に参加して The Focuser's Focus, 22(3), 13.
 48. 山内志保 2019 TRE とフォーカシングのコラボレーション企画に寄せて The Focuser's Focus, 22(2), 5-6.
 49. 矢野キエ 2019 子どもとフォーカシング：雨上がりの日に～ミラーリングの威力を知る～ The Focuser's Focus, 21(4), 12.
 50. 横山章子 2019 集い in しまね 参加者の感想：『フォーカシング指向ミーティング』に参加して The Focuser's Focus, 22(3), 5-6.

C. 学会発表

1. 青木 剛 2019 フォーカシングの態度が精神的負荷及び安静課題時の心拍に及ぼす影響について 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 78.
2. 花川ゆう子・堀尾直美 2019 「からだ」は「こころ」が宿る場所—フォーカシングと加速化体験力動療法 (AEDP) の視点からセッション録画を読み解く— 日本心理臨床学会第38回大会発表論文集, 32.
3. 星加博之 2019 フォーカシングによるPTSDへのアプローチ—回復への端緒となる“キュー・フェルトセンス”— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 64.

4. 窪田直樹 2019 「こころの天気」がもたらす小学校児童の心理的变化に関する考察 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 83.
5. 森川友子・山本志帆 2019 体験過程尊重的アプローチにおけるマイクロ技法の探索 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 42.
6. 村里忠之・飯嶋秀治 2019 交差のリアリティを实践する 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 36.
7. 永野浩二・河崎俊博・森川友子・福盛英明・平井達也 2019 フォーカシング的態度を促進するための環境要因の検討～心理社会的要因との関連から～ 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 66.
8. 日本人間性心理学会第38回大会 2019 自主シンポジウム：『交差』概念の拡張について考える 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 47.
司会者（高橋寛子）
話題提供者（高橋寛子・吉良安之・村里忠之）
コメンテーター（吉良安之・村里忠之）
9. 日本人間性心理学会第38回大会 2019 自主シンポジウム：フォーカシング指向心理療法の全体像と勘所一どのようにな面接プロセスが進み、どのように終結するのか— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 49.
企画者（河崎俊博）
司会者（平野智子）
話題提供者（内田利広・星加博之・小泉隆平）
指定討論者（大迫久美恵・田中秀男）
10. 日本人間性心理学会第38回大会 2019 自主シンポジウム：幼児の表現（言語や身体で表すこと）をどのように促すか—フォーカシングを用いた関わりの可能性を探る— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 50.
企画者（矢野キエ・三木健郎）
指定討論者（内田利広）
11. 酒井久実代 2019 フォーカシング指向ピアカウンセリングの効果の検討 日本カウンセリング学会第52回大会プログラム, 49.
12. 酒井久実代 2019 フォーカシング的態度によるフォーカシング日記の効果の違い 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 65.
13. 内田利広・田中秀男 2019 フォーカシング指向心理療法における相互作用と交差—模擬面接の逐語記録の分析を通して— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 39.

D. 翻訳

1. Chan, C. (天海道子訳) 2019 世界のフォーカシング(16) 私のフォーカシング歴と香港・中国での発展 The Focuser's Focus, 22(1), 9-10.
2. Sergio, L. (久羽 康訳) 2019 世界のフォーカシング(17) 私とフォーカシ

グ：チリで、そして他の場所で体験したこと The Focuser's Focus, 22(2), 15-18.

E. 海外文献紹介

1. Nada, L (久羽 康・大澤美枝子訳) 2019 FOCUSING with Eugene T. Gendlin Ph.D (ジェンドリンによるフォーカシングの紹介) [DVD] The Focuser's Focus, 21(4), 13-15.
2. Nada, L (久羽 康訳) 2019 Why focusing works (なぜフォーカシングはうまく働くのか) [DVD] The Focuser's Focus, 22(3), 18-19.

F. 書評

[該当文献なし]

付：同リスト（～2018）

「第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の追録

A. 書籍

1. 石原加受子 1991 本当のあなたはもっと素晴らしい—“気づき（フォーカシング）効果”で超・快感人間へ— 青春出版社
プロローグ「本当のあなたはもっと素晴らしいパワーを持っている」
 - 1 「全身に暖かい血液が…」イメージしてください
 - 2 「頬に当たる風を…」感じてください
 - 3 「白い雲…」想い出してください
 - 4 「2人で、川のせせらぎを…」聞いていますね
 - 5 「体の中がゆったりと波打つ…」感じがわかりますか
2. 村田 進 2015 体験過程心理療法 創作体験の成り立ち— コスモス・ライブラリー
序論 追悼：畠瀬稔先生の道程
第1部 心理的成長と中心過程について
序章 学校臨床と中心過程
第2章 体験過程尺度から見た心因性アトピー性皮膚炎の青年の回復過程における間と推進のプロセス
第3章 ADの3つの研究の比較・検討と回復過程について
第4章 先行研究
第5章 学校臨床事例研究
第2部 V. ウルフ『灯台へ』と創作体験
第6章 「灯台へ」概論
第7章 「灯台へ」創作体験による心理的変化の評価について

終章 マトリョーシカと癒しの時間
結論 本論の目的・仮説・定義・方法と結果
資料編
〈補遺〉

3. 村田 進 2016 ふっきれて今ここに生きる—創作体験と心理的成長の中心過程について— コスモス・ライブラリー

本論

序論（方法論）

序章 「灯台へ」創作体験における中心過程について A研修会でのIさんの心理的成長

第1部 創作体験法の展開

第2章 「創作体験面接法」の開発と方法について パーソンセンタードの課題グループの中で取り組まれた「創作体験」の面接法としての開発と試行：「乗り物イメージ（ペガサス・メディテーション）創作体験法」

第3章 授業 ころをころがせる○△□創作体験を中心に

第4章 禅マンドラ画「○△□」創作体験法について考える

第5章 体験過程尺度から見た「つくる」（枠づけ）創作体験法の心理療法的構造

第2部 創作体験グループ法の発展と理論

第6章 パーソンセンタードの学習グループとしての「創作体験」について

第7章 エンカウンターグループにおける課題（インタレスト）グループのあり方について「創作体験」の位置づけ

結論：深層とリアルと表層 過去・現在・未来「灯台へ」第1章・2章・3章
エピローグ 在りし日の有馬研修会における畠瀬稔先生

資料編

B. 研究論文

1. 犬塚文雄 1981 生徒理解の内容と方法に関する基礎的考察—E. ジェンドリンのパーソナリティ理論を手がかりとして— 教育方法学研究, 6, 32-39.
2. 春日菜穂美 2016 大学生に対するストレスマネジメント教育における「こころの天気と私」の気分改善効果 盛岡大学紀要 33, 27-34.
3. 中田行重・蒲生侑依・中臺一樹・野村明希・山島陽香・尾浦有梨・平野秀幸・見澤行子 2018 McGuireのクリアリング・スペース法を用いたCoffengによるPTSD論 関西大学心理臨床センター紀要, 9, 85-93.
4. 上西裕之 2018 自己安定化尺度作成の試み：精神的回復力および日常生活におけるフォーカシング的態度との関連 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 27 - 38.

C. 学会発表

[該当文献なし]

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

[該当文献なし]

第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチなどのパーソンセンタードなオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した²。

2019年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は1本であった。「B. 研究論文」は2本であった。「C. 学会発表」は11本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」はなかった。

2019年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、そもそも文献の少なさが上げられる。これは昨年と同様であった。ただし、学会発表においては、いくつかの新しい実践の報告（C-1, C-4など）もみられる。これらの報告が近いうちに研究論文としてまとめられることが期待される。また、長年、EGの実践と研究に貢献してきた実績が認められ、人間関係研究会に日本人間性心理学会学会賞が授与された。C-8はその記念シンポジウムである。次年度は人間関係研究会創立50周年である。次年度に向け、EGに関わる文献の積極的な公刊が期待される。

A. 書籍

1. 坂中正義 2019 エンカウンター・グループ 布柴靖枝・板東充彦編「家族関係・集団・地域社会（公認心理師 実践ガイダンス 第3巻）」木立の文庫, 112-116.

² なお、体験過程療法に特化したグループ・アプローチは、第Ⅱ部へ収録されている。

B. 研究論文

1. 大橋佳奈 2019 心理臨床家をを目指す大学院生の2回目のベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学心理学部紀要, 1, 129-141.
2. 吉田由美・相澤亮雄・稲尾菜月・尾崎仁美・河本上枝・重松初代香・村山正治 2019 入学初期の看護学生に行ったPCAGにおけるファシリテーター体験の報告 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 35-43.

C. 学会発表

1. 法眼裕子・大下智子 2019 EGカフェに参加しませんか in 跡見学園女子大学 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 40.
2. 井出智博・片山由季 2019 児童養護施設におけるキャリア・カウンセリング・プロジェクトの効果と意義—職員への質的調査の結果から— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 71.
3. 金子周平・田中将司 2019 体験過程プロセス分析によるLow-structured groupのファシリテーター訓練に関する仮説生成 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 44.
4. 北田朋子・中山幸輝・姜潤華・村上恵子 2019 ロジャーズ論文を媒介とした大学院生グループの意味—修了後の語りから— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 75.
5. 松本千尋 2019 非構成的エンカウンター・グループ体験の報告と検討 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 67.
6. 三浦文子 2019 大学生対象の構成的エンカウンター・グループ—「コ・ファシリテーター方式」におけるシェアリングの工夫— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 67.
7. 本山智敬 2019 教員のファシリテーションを支える—高等学校での構成的グループ・エンカウンターの実践— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 56.
8. 日本人間性心理学会第38回大会 2019 学会賞受賞記念シンポジウム：未来を紡ぐ人間関係研究会の歩み 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 15.
司会者（山田俊介）
シンポジスト（畠瀬直子・高松里・本山智敬）
指定討論者（森岡正芳）
9. 日本人間性心理学会第38回大会 2019 自主シンポジウム：PCAを背景に持つグループの可能性を考える～ファミリーグループとコミュニティブレセラピーの比較から～ 日本人間性心理学会第38回大会プログラム,

48.

司会者（野田 諭）

話題提供者（野田 諭・押江 隆）

指定討論者（水野行範・新村信貴・池ノ谷 和・加藤春奈・田畑優介・坂本和久）

10. 高橋紀子・押江 隆・足立美美・梅野智美・坂本和久・藤田洋子・田畑優介・鎌水翔太 2019 なぜグループをするのか：グループ実践家自身の内省と語りあいの場としての「PCAジャンクション」の試み 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 70.
11. 吉村麻奈美・高橋紀子・吉川麻衣子・野島一彦 2019 世代間交流エンカウンター・グループを大学生はどのように体験したか 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 70.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2018）

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

A. 書籍

1. 堤 寛監修 寺田佐代子 2012 wellbeing program～私が私らしく生きるために～エンカウンター・グループのためのテキスト 三恵社
2. 堤 寛監修 寺田佐代子 2015 wellbeing program～私が私らしく生きるために～がん患者のためのピア・サポート活動に役立つエンカウンター・グループのためのテキスト vol.2 三恵社
はじめに
 1. ピア・サポートの特徴と役割
 2. ピア・サポーター自身の自己管理
 3. “ファシリテーション”って、実際、どんなこと？
 4. ピア・サポート活動に役立つ、エンカウンター・グループのためのプログラム用ワークシート

B. 研究論文

1. 相原 誠 2012 大学生を対象にした合宿型集中エンカウンター・グループの効果の検討 九州産業大学国際文化学部卒業論文
2. 西野秀一郎 2018 臨床心理初学者の9回目のベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 6, 97-109.
3. 野島一彦 2018 グループ・ファシリテーターを育てる 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 6, 9-19.
4. 鐘水翔太 2018 ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 15, 85-90.

C. 学会発表

〔該当文献なし〕

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

1. 橋本久仁彦 2016 「齋藤 環著訳 2015『オープンダイアログとは何か』医学書院」: 非構成的エンカウンター グループの豊かさ 看護教育, 57(2), 145-145.
2. 神田橋條治 2015「村山正治編著 2014『「自分らしさ」を認めるPCAグループ入門—新しいエンカウンターグループ法—』創元社」 ころの科学, 181, 日本評論社, 103.

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部:その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2019年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」はなかった。「B. 研究論文」は7本であった。「C. 学会発表」は4本で、そのうち1つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」は1本であった。「F. 書評」はなかった。

2019年における「その他」の特徴は、その大半がPCAGIPに関わるものであったことであろう。これは昨年と同様の傾向である。PCAGIPネットワークの設立され（B-3）、PCAGIP実践と研究のますますの発展が期待される。

なお、2019年は「人間性心理学研究」に1本（B-7）、関連文献が掲載された。

A. 書籍

〔該当文献なし〕

B. 研究論文

1. 石倉 篤・清澤亜希子・田中雄大・原田祐奈・堀川優依・中田行重 2019 若手心理臨床家の指定大学院修了後の歩み：変化・成長をめぐるPCAGIP法を通じた探索的検討 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 9, 13-22.
2. 川手泰子 2019 地方創生さわやかサポーター認定協会の活動に参加してカウンセリング, 51(1), 21-27.
3. 村山正治 2019 PCAGIPネットワーク設立会 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 45-54.
4. 村山正治・浦野俊美・渡辺 隆 2019 5年間の播磨PCAGIPプロジェクトの軌跡 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 5-11.
5. 中田行重・村山正治 2019 第2回PCAGIPネットワーク大会シンポジウム—PCAGIP法におけるPCAの人間観— 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 55-67.
企画者（中田行重・小野真由子・並木崇浩）
話題提供者（井出智博・堀尾直美・望月洋介）
指定討論者（村山正治・森川友子）
6. 杉浦崇仁・村上恵子・吉田由美・古野 薫・北田朋子・中山幸輝・吉持慕香・村山正治 2019 「PCAグループ」及び「PCAGIP法」に関する文献リスト（2018） 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 18, 75-84.
7. 山根倫也・押江 隆 2019 児童の教師に対する態度認知と学級集団形成および学校適応感の関連—ロジャーズの3条件態度の認知による検討— 人間性心理学研究, 36(2), 207-218.

C. 学会発表

1. 内藤裕子 2019 養護教諭養成におけるPCAGIPの活用と効果(3)—効果測定尺度と効果要因の検討— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 834.
2. 日本人間性心理学会第38回大会 2019 自主シンポジウム：日本の組織変革

へPCAGIP導入の実際と社会貢献 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 51.

企画者 (村山正治・中田行重)

司会者 (村山正治・中田行重)

話題提供者 (野村陽子・成田有子)

指定討論者 (高楊美裕樹・南 陽子)

3. 野村陽子 2019 医療従事者のメンタルヘルスにおけるPreventionとしてのPCAGIP法導入から継続まで 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 60.
4. 恒松聡一郎 2019 アスリート・センタード・コーチングと指導者中心的コーチングに対する評価の比較—競技成果に着目して— 日本人間性心理学会第38回大会プログラム, 59.

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

1. 山根倫也・中田行重 2019 Person-Centered Educationの成果と課題：Cornelius (2007) のメタ分析の紹介から：教師の一致に着目して 関西大学心理臨床センター紀要, 10, 53-63.

F. 書評

[該当文献なし]

付：同リスト (～2018) 「第IV部：その他」の追録

A. 書籍

1. 宮本真巳 2003 援助技法としてのプロセスレコード—自己一致からエンパワメントへ— 精神看護出版
 - I. プロセスコードの現代性
 - 1 プロセスコードの現代性 (宮本真巳)
 - II. 実習指導という体験—教員の物語
 - 2 思いを記述すること・口にすること (松岡裕美・宮本真巳)
 - 3 自己一致を阻むもの (松岡裕美・宮本真巳)
 - 4 ケアをめぐる学生への提案について (日下和代・宮本真巳)
 - 5 学生のゆらぎをどう支えるか (日下和代・宮本真巳)
 - 6 それぞれの位置—患者からの言葉を受けとめるとき (小宮敬子・宮本真巳)

- 7 臨床実習における集団力動 (式守晴子・宮本真巳)
- 8 臨床実習というドラマのキャスティング (堀 知子・宮本真巳)
- III. 臨床実習という体験—学生のお話
 - 9 共同の仕事としての臨床実習 (堀川英起・宮本真巳)
 - 10 自己学習支援としての臨床指導 (堀 知子・宮本真巳)
 - 11 看護職として感性を磨くということ—倫理的問題への取り組みを通して (松岡裕美・宮本真巳)
 - 12 主観と客観はどうつながるか—問題の明確化を通して (山口さおり・宮本真巳)
 - 13 感情の導くままに (廣山奈津子・宮本真巳)
 - 14 他人から認められること・自分を認めること (花房伊保里・宮本真巳)
 - 15 言葉に頼れない世界で—身体感覚をアンテナにして (折笠精土・小宮敬子・宮本真巳)
- IV. エンパワメント技法としての再構成法
 - 16 エンパワメント技法としての再構成法 (宮本真巳)

B. 研究論文

1. 古田克利 2018 キャリアカウンセリングの事例検討法に関する実践研究：PCAGIP法の適用可能性の検討 関西外国語大学研究論集, 108, 35-49.
2. 橋場優子・筒井優介・狭間美佳 2018 就労移行支援事業所におけるフォーカシング指向アート・プログラムの試み：フォーカシング指向アートセラピーの集団における実践 関西大学心理臨床センター紀要, 9, 49-60.
3. 石倉 篤・清澤亜希子・田中雄大・原田祐奈・堀川優依・中田行重 2018 若手心理臨床家の指定大学院修了後の歩み—変化・成長をめぐるPCAGIP法を通じた探索的検討— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 9, 13-21.
4. 三浦 孝 2018 人間形成的外国語（英語）教育の系譜と将来—草の根の教師たちが積み上げてきた財産— 新英語教育, 589, 7-10.
5. 水野行範 2017 元気が出る事例検討法PCAGIP法のすすめ 月刊学校教育相談, 31(8), 26-29.
6. 内藤裕子 2017 養護教諭養成におけるPCAGIP法の活用と効果(2)—評価尺度の作成— 教職研究, 59-67.
7. 坂本直也 2011 スクールカウンセリングにおける教員研修の実践に関する研究：PCAGIP法を参考にした事例検討について 人間と環境, 2, 85-96.
8. 仙頭彩奈・深津典子 2014 心理臨床センタースタッフにおけるケースカンファレンスとPCAGIP法の比較を通して 明治学院大学心理学部附属研究所年報, 7, 53-62.
9. 徳田完二 2014 事例検討法をめぐる考察—PCAGIPをヒントとして— 立

- 命館大学・教育相談センター年報, 12, 62-81.
10. 筒井優介・狭間美佳・橋場優子 2018 学校臨床におけるカンパセーション・ドローイングの集団実施：フォーカシング指向アートセラピーの集団における実践 関西大学心理臨床センター紀要, 9, 61-68.
 11. 後山未来・永田雅樹・金井孝俊・垣 亜沙妃・甲山めぐみ・水村明音・吉川真央・池見 陽 2018 PCAGIPにおける夢の意味の創造性：ホラーから友情物語に姿をかえた夢 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 8, 1-10.
 12. 渡辺 隆 2018 播磨でのPCAGIP体験パートⅡーファシリテーターに焦点を当ててー 未公刊

C. 学会発表

1. 日笠摩子・村山正治・堀尾直美・佐藤文彦・宮沢志津枝・小坂淑子・野々口知子・亀田久美子・久羽 康 2011 パーソンセンタード・アプローチ流の事例検討のあり方ⅡーPCAGIP法の実際ー 日本心理学会第30回大会発表論文集, 700.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

統計

2019年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2019年に公刊された関連文献は107篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」26篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」70篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」3篇、「その他」8篇）であった³。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は8161篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3582篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2338篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1863篇、

³ 学会発表は合計に含まれていない。

「その他」378篇)となった。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いである。

連絡先 〒466-8673 愛知県 名古屋市昭和区山里町18

南山大学 人文学部 坂中正義

E-mail:sakanaka@nanzan-u.ac.jp

Fax: 052-832-3110 (ダイヤルイン) 3955

Table 日本におけるパーソナルセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2020.02.18現在)

	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	10-14	2015	2016	2017	2018	2019	合計
来談者中心療法	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	4	6	1	3	1	2	182
パーソナルセンタード・カウンセリング	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	44	1	0	2	2	2	568
書籍：草	0	0	0	0	2	9	19	15	3	11	13	15	8	1	0	2	2	2	111
論文：特集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
論文：一般	0	5	91	68	67	114	149	229	186	317	348	281	251	45	17	36	21	14	2239
翻訳：単行本	1	3	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	4	0	0	0	0	0	55
翻訳：草	0	0	41	106	3	6	7	6	13	59	1	6	1	0	0	0	0	0	257
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	2	7	2	1	0	3	26
書評	0	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	22	3	0	5	2	144
参考：発表	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	9	9	11	2	3	3	3	2	47
参考：一般	0	5	28	19	9	16	2	4	18	21	38	27	45	5	3	13	2	9	264
合計 (学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	489	506	423	341	71	21	47	28	26	3582
体験過程療法	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3	8	6	8	5	3	0	0	0	40
フォーカシング指向心理療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	126
(含：体験過程の基礎概念)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
論文：一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
翻訳：単行本	0	0	0	0	0	1	24	66	99	130	191	401	373	349	59	57	67	65	50
翻訳：草	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	5	8	3	0	2	0	0	26
海外文献紹介	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	5	12	2	4	5	2	2	70
書評	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	1	2	12
参考：発表	0	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	2	0	95
参考：一般	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	6	17	2	5	4	3	3	53
合計 (学会発表は除く)	0	0	0	0	0	5	11	28	41	41	44	60	139	117	4	14	32	5	10
ベシック・エンカウンター・グループ	0	0	0	2	7	6	37	81	116	159	266	461	436	419	69	74	78	78	2338
(含：グループカウンセリング)	0	1	0	1	0	1	2	1	4	3	2	4	6	2	0	0	0	0	27
書籍：草	0	0	0	0	1	4	19	16	15	30	29	14	4	10	1	0	0	1	146
論文：特集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
論文：一般	0	0	3	0	37	121	247	206	283	155	216	143	113	36	8	19	8	2	1597
翻訳：単行本	0	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	14
翻訳：草	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	0	14
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
書評	0	0	0	0	0	0	0	1	2	13	3	6	7	5	3	1	0	0	43
参考：発表	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	7	3	6	6	7	2	2	1	28
参考：一般	0	0	1	0	0	28	40	44	54	42	29	45	55	43	5	14	10	7	426
合計 (学会発表は除く)	0	1	4	2	46	149	270	226	339	195	247	167	134	43	9	19	9	3	1863
その他	0	0	0	4	2	2	0	0	0	3	1	5	7	7	2	1	0	0	34
(教育・経営など)	0	0	0	0	2	0	2	0	5	6	3	1	11	1	0	0	0	0	31
論文：特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
論文：一般	0	4	1	6	13	19	10	25	13	45	38	52	8	2	7	10	6	259	
翻訳：単行本	0	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	1	0	0	0	0	12
翻訳：草	0	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	1	0	0	0	0	17
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	2	4	3	1	2	0
参考：発表	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
参考：一般	0	0	0	0	6	0	4	0	1	3	7	16	1	26	6	8	10	6	3
合計 (学会発表は除く)	0	0	4	13	10	15	26	12	34	20	70	49	78	15	5	9	10	8	378
総計	6	21	168	269	200	391	626	642	866	970	1284	1075	972	198	109	153	125	107	8161

(注) データは坂中による一連の「日本におけるパーソナルセンタード・アプローチに関する文献リスト」シリーズによって提供された。